2016年10月期 株主説明会

2017年1月25日 株式会社モルフォ (東証マザーズ: 3653)



本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および 仮説に基づき当社が判断したものであります。

当該仮説や判断に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等の様々な要因により、

実際の業績等は本資料記載の業績予想とは異なる場合があることを

ご承知おきください。



目次

4

1 会社概要

2 2016年10月期 事業概況

3 2017年10月期の戦略

2016年10月期 新製品のご紹介



会社概





(2017年1月25日現在)

社名	株式会社モルフォ (Morpho, Inc.)							
設立年月日	2004年5月26日							
資本金	1,518,089千円							
事業内容	画像処理技術の	画像処理技術の研究開発および製品開発ならびにライセンシング						
所在地	東京都千代田口	東京都千代田区西神田3-8-1 千代田ファーストビル東館12階						
	代表取締役	社長		<u>\\</u>	賀	督	基	
	常務取	締 役		染	谷 誹	太	朗	
	取締	役		漆	Щ		幸	
	取 締	役	(社外)	木	下	耕	太	
役員	取 締	役	(社外)	各	務	茂	夫	
	常勤監	査 役	(社外)	能	勢	征	児	
	監査	役	(社外)	上	原	将	人	(公認会計士)
	監 査	役	(社外)	平	野	高	志	(弁護士)
	補 欠 監	査 役	(社外)	根	岸	秀	忠	
顧問	最高技術	顧問		或	井	利	泰	(東京大学名誉教授)
従業員数	連結73名 単体68名							
主要株主	平賀 督基 株式会社デンソー					デンソー		
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行 みずほ銀					ほ銀行	<u></u>	
上場金融商品取引所	東京証券取引所マザーズ(証券コード:3653) (上場日:2011年7月21日)							
情報セキュリティマネジメント	ISO27001認証取得(JQA-IM0922)							



新たなイメージング・テクノロジーを創造する集団として 革新的な技術を最適な「かたち」で実用化させ、 技術の発展 と 豊かな文化の実現に貢献します。



『全ての「カメラ」に知能を持たせる』

画像処理と画像認識技術を融合する事で IoV (Internet of Vision) の世界を実現する



2004年	5月	東京都港区南青山に株式会社モルフォを設立
	9月	本社を東京大学本郷キャンパス内(東京都文京区本郷)に移転
	10月	「PhotoSolid®」(静止画手ブレ補正技術)、「MovieSolid®」(動画手ブレ補正技術)を発表
2006年	6月	NTTドコモ(NEC製)端末へ「PhotoSolid®」の搭載開始
	11月	NTTドコモ(NEC製)端末へ「MovieSolid®」の搭載開始
2009年	3月	Sony Ericssonとのライセンス契約を締結
2011年	7月	東京証券取引所マザーズ市場に株式上場
	8月	Samsung Electronics とのライセンス契約を締結
	9月	「PhotoSolid®」の搭載ライセンス数の累計が1億ライセンスを突破
2012年	2月	Morpho US, Inc. 設立
	6月	LGとのライセンス契約を締結
	11月	HTC とのライセンス契約を発表
2013年	7月	Huaweiのスマートフォンに製品搭載
	10月	Morpho Korea, Inc. 設立
2014年	4月	本社を東京都千代田区西神田(千代田ファーストビル東館)に移転
	12月	ディープラーニングによる画像認識技術の開発に成功「Morpho Scene Classifier」の提供開始
2015年	12月	株式会社デンソーと資本業務提携
2016年	3月	モルフォ製品の累計ライセンス数が15億ライセンスを突破
	4月	画像認識ソフトウェア開発に特化したディープラーニング製品「Morpho Deep Learning System」を製品化
	6月	株式会社コンセプトと資本業務提携



2

2016年10月期 事業概況



戦略1. カメラデバイス事業の伸長・拡大

- ■既存技術の強化・進化
 - ・累計15億ライセンス超を達成、スマートフォンのデファクトスタンダードに近づいたが、スマホ市場の成長鈍化によりロイヤリティ収入が減少
- ■中国企業へのアプローチ強化
 - ・Thundersoft社との協業により中国企業開拓が進展
- ■新規カメラデバイス事業立ち上げ等
 - ・自動車関連にて株式会社デンソーと共同開発を開始
 - ・AR(拡張現実感)をコア技術に有する株式会社コンセプトと新たな製品、 ソリューションおよびサービスの提供に向けた共同開発を開始



戦略2. ネットワークサービス事業の確立

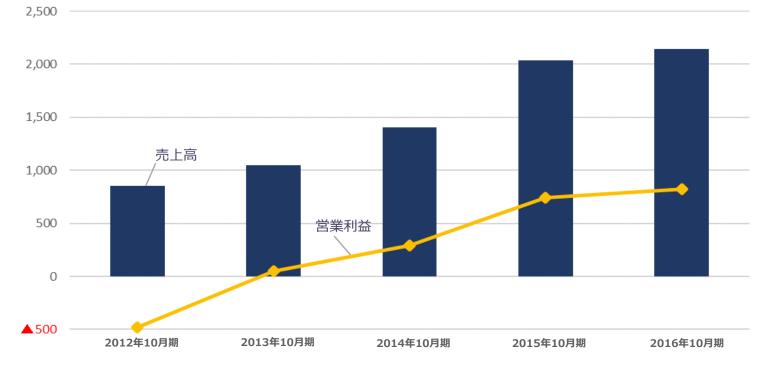
- ■ディープラーニング関連
 - ・画像認識ソフトウェア開発に特化したディープラーニング製品「Morpho Deep Learning System」を発表
 - ・各種事業者にて学習エンジンおよび認識エンジンが採用
- ■放送局関連
 - ・フレーム補間エンジン「Morpho Frame Interporater」を発表、 国内放送局に採用
 - ・NAB Show 2016およびIBC2016 に初出展 放送・映像業界に特化した4K 対応の映像技術を紹介



科目 2012年10月期 2013年10月期 2014年10月期 2015年10月期 2016年10月期 売上高 855 1,049 1,405 2,037 2,143 営業利益 **▲**479 52 295 742 824 営業利益率 **▲**56% 5% 21% 36% 38% 経常利益 **▲**472 73 329 785 753 親会社株主に帰属する 507 **▲**557 30 309 604 当期純利益

単位:百万円

百万円以下切捨

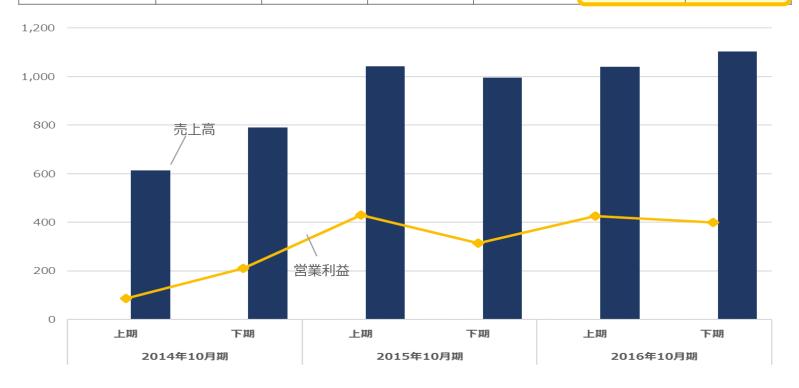




2014年10月期 2016年10月期 科目 2015年10月期 上期 下期 上期 下期 上期 下期 売上高 614 1,042 995 1,040 1,102 791 85 428 313 426 営業利益 209 398 14% 26% 41% 32% 41% 36% 営業利益率 93 307 364 388 経常利益 235 477 親会社株主に帰属する 60 349 253 258 249 248 当期純利益

単位:百万円

百万円以下切捨



セグメント別業績の推移一【カメラデバイス事業】

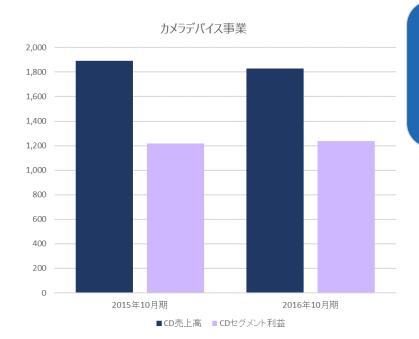


単位:百万円

カメラデバイス事業

科目	2015年10月期	2016年10月期			
	通期	通期	増減 (対前年同期比)		
売上高	1,890	1,827	▲ 62		
セグメント利益	1,219	1,237	+17		
セグメント利益率	65%	68%	+3ポイント		

百万円以下切捨



・「カメラデバイス事業」は、中国顧客向けロイヤリティ収入や 車載向け開発収入が大幅に増加した一方、他地域顧客向け ロイヤリティ収入の減少により、売上は前年同期比▲3.3%減 セグメント利益は、協力企業等に対する支払手数料等費用が 減少したため前年同期比+1.5%増



当社グループは事業セグメントを区分開示する重要性が乏しかったため、セグメント情報の記載を省略しておりましたが、2016年10月期第一四半期より、量的な重要性が増加したことに伴い、「カメラデバイス事業」「ネットワークサービス事業」の2つを報告セグメントとさせていただきます。前年同期比較については、前年同期の数値を当該報告セグメント区分に基づき作成した数値で比較しております。

セグメント別業績の推移一【ネットワークサービス事業】

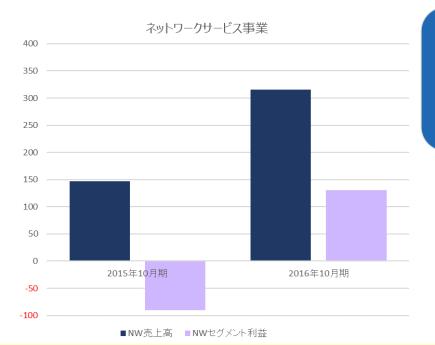


単位:百万円

ネットワークサービス事業

科目	科目 2015年10月期		2016年10月期			
	通期	通期	増減 (対前年同期比)			
売上高	147	315	+168			
セグメント利益	▲90	130	+221			
セグメント利益率	▲ 61%	41%	_			

百万円以下切捨



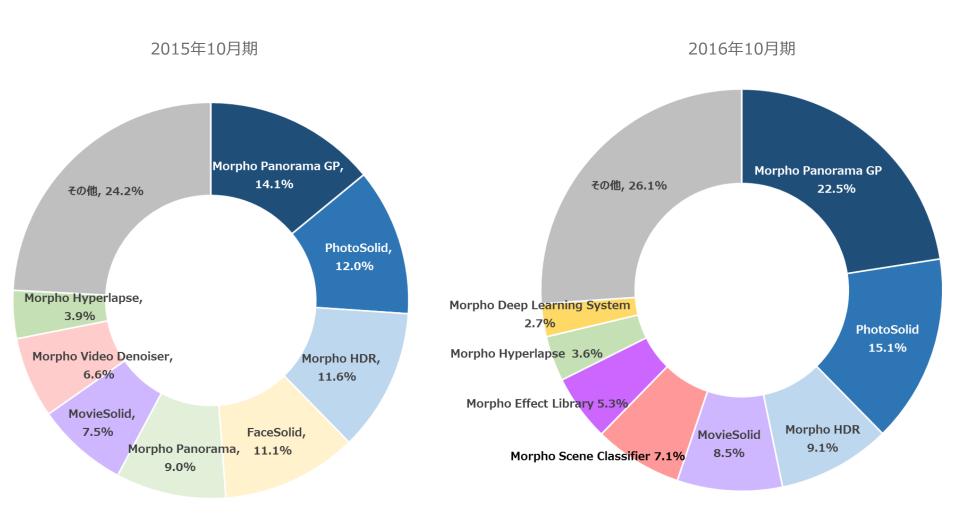
「ネットワークサービス事業」は、ロイヤリティ収入に結実した案件が増加したこと、および建設・FA(ファクトリーオートメーション)・放送等の新規事業領域において試作案件を獲得したことにより売上は前年同期比114%増セグメント利益は売上高増加により黒字に



当社グループは事業セグメントを区分開示する重要性が乏しかったため、セグメント情報の記載を省略しておりましたが、2016年10月期第一四半期より、量的な重要性が増加したことに伴い、「カメラデバイス事業」「ネットワークサービス事業」の2つを報告セグメントとさせていただきます。前年同期比較については、前年同期の数値を当該報告セグメント区分に基づき作成した数値で比較しております。

ソフトウェア製品別の売上高構成





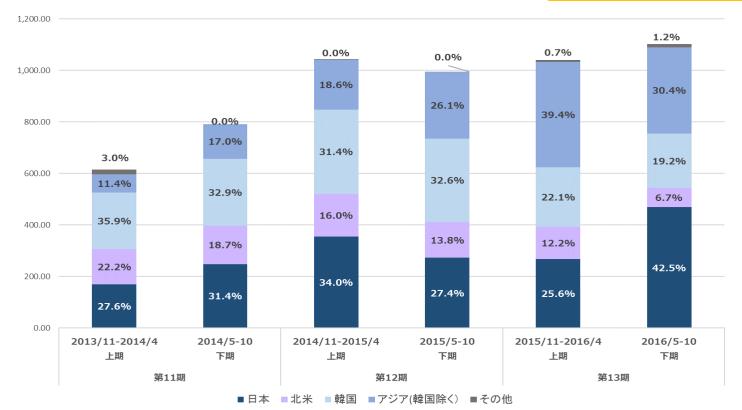
地域別売上高推移



地域	2014年10月期 上期	2014年10月期 下期	2015年10月期 上期	2015年10月期 下期	2016年10月期 上期	2016年10月期 下期
日本	169	248	354	273	266	468
北米	136	148	166	137	126	74
韓国	220	260	327	324	230	211
アジア(韓国除く)	69	134	194	259	409	334
その他	18	0	0	0	7	12
合計	614	791	1,042	995	1,040	1,102

単位:百万円

百万円以下切捨





3

2017年10月期の戦略



Computational Photography



Deep Learning



2年目

戦略 1 カメラデバイス事業の伸長・拡大 スマホ市場シェアNo.1 新規カメラデバイス事業確立



ネットワークサービス事業の確立 強みを生かしたビジネスモデル 動画ソリューションの充実と拡大



IoVの世界を実現



Deep Learning

多層構造の最先端ニューラルネットワーク技術による機械学習

画像処理と画像認識技術を融合する事で IoV(Internet of Vision)の世界を実現

Computational Photography

カメラの物理的・光学的な限界から生じる課題を 軽減・解決することを目的とした技術



戦略1.カメラデバイス事業の伸長・拡大

- ■スマホ市場シェアNo.1
- >>競合製品やメーカー各社による内製を打破し、 スマホ市場シェアNo.1を目指す
- ■新規カメラデバイス事業確立
- >>ポストスマホ事業の開拓推進 車載カメラ事業の確立
- ■中国市場での更なる拡大
- >>パートナーシップを強化し深耕拡大・新規開拓



◆次世代画像認識システム向けDNNのアルゴリズムを共同開発



Deep Neural Network(DNN)による 画像認識技術のアルゴリズムが、高度運転 支援および自動運転技術の実現に向けた 次世代の画像認識システムへ応用



DNNを用いた画像認識で、自ら対象物の特徴を抽出し学習が可能に





▶多様な対象物の認識および検知精度の飛躍的な向上を実現



戦略2.ネットワークサービス事業の確立

- ■ディープラーニング関連
- >>「Deep Learning System」の商用ライセンス化 収益と売上のバランスの取れた成長を目指す
- ■放送局関連
- >>映像処理のクラウド型サービスの提供開始 海外顧客の取り込み



1.ディープラーニング関連

アイテック阪急阪神



Morpho

『アイテック阪急阪神株式会社との業務提携』

■ ディープラーニング技術分野で業務提携 西日本地域を中心に、これまで提供してきた市場(Webサービス、建設、製造等)に加えて、今後は交通関連やビル関連の市場の開拓を推進する予定

2.放送局関連

FUJISOFT



Morpho

『クラウドビデオプロセシングサービス(仮称)』

- モルフォの映像処理技術を富士ソフト株式会社構築のクラウドサービス上で提供する 新しいサービス。放送局、放送機器メーカー、コンテンツプロバイダ、ポストプロダクション、 広告、監視カメラ等あらゆるデジタル映像コンテンツを取扱う市場が対象。 2017年春サービス開始の予定
- 肥大化する制作工数の大幅削減のため、高精細かつ高画質な映像処理をシンプルなインターフェースと高性能な映像処理を併せ持ったクラウド型サービスを低コストで提供



■連結損益計算書

単位:百万円

科目	2016年10月期	2017年10月期 業績予想			
110	(通期実績)	(通期)	増減額		
売上高	2,143	2,500	+357		
営業利益	824	950	+126		
経常利益	753	950	+197		
親会社株主に帰属する 当期純利益	507	650	+143		
1株当たり 当期純利益 円 銭	98.33	123.31	+24.98		

百万円以下切捨



4

2016年10月期の新製品のご紹介



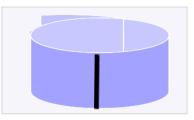
高解像度画像で360度パノラマを高速合成

~臨場感あふれるパノラマ写真をスマートフォンで簡単に~

4 K等高解像度の入力画像をリアルタイムに合成360度ぐるっと繋がったパノラマ画像を作成します







パノラマ画像の始点と終点をぐるりとシームレスにつなぎ合わせます。



